

平成28年度

米国（フランク・ロイド・ライト（FLW）視察研修ツアー報告書

日程：2016年6月7日（火）～6月13日（月）

2016年8月

（一社）輸入住宅産業協会

実施概要

- 企画主催 (一社) 輸入住宅産業協会 品質向上委員会
- 旅行主催 株新生旅行
- 実施期間 2016年6月7日(火)より13日(月)7日間
- 訪問先 米国シカゴ、ピッツバーグ、ニューヨーク他
- 参加者数 IHIO会員他 26名
- 団長 森田 順 (スウェーデンハウス株執行役員)
IHIO 品質向上委員会委員長として、毎年技術向上や品質向上に関する研修を指導企画する。
- 企画コーディネート 菊池 クリス

北米研修と成果報告セミナーの実施

近代住宅建築・デザインに大きな影響をもたらしたフランク・ロイド・ライト (FLW) にフォーカスした「近代建築 (住宅) の根底に流れる設計の規則性・創造性」に触れる研修視察をシカゴではアーキテクチャーウォーク、近辺のオークパーク、ピッツバーグでは FLW の代表作「落水荘」及び周辺に散在する建築物、さらにニューヨークは、グッゲンハイム等を6月7日より13日まで26名参加のもと実施した。

その成果報告として、7月29日午後、参加者講師による米国研修報告セミナーを池袋「明日館」にて行った。

研修の趣旨

1. 近代住宅建築・デザインに大きな影響をもたらしたフランク・ロイド・ライト (FLW) にフォーカスした「輸入住宅の根底に流れる設計の規則性・創造性」に触れる研修。
2. 研修先
 - ・ 建築のメッカ、シカゴへ飛び、シカゴのアーキテクチャーウォーク、近辺のオークパークで半日 FLW の足跡を追い、その後は近代建築の象徴とも言えるシカゴの摩天楼 (40 近くの建築物) を説明付きリバークルーズは一見の価値があります。
 - ・ FLW の代表作「落水荘＝フォーリングウォーターハウス」とその周辺に散在する建築物。ミルーラン地域は多くの日本人が訪問する観光拠点から大分離れたところですので、思い切りがないとなかなか見れません。目的を持って FLW の世界と自然との調和を感じていただきます。
 - ・ ニューヨークでフリータイム。建築・設計の世界の楽しみや、買物、エンターテインメント等アメリカを体感。

研修参加者

添付資料通り 26 名

米国研修(フランクロイドライト)視察ツアー参加者リスト

O. S.	Ogura Satoru	サンワ設計(株)
O. K.	Kazuhiko Ogura	三和ホーム宮崎
O. H.	Hiroko Ogura	三和ホーム宮崎
H. T.	Higashino Takeshi	クロダハウス(株)
H. K.	Hoya Katsumi	クロダハウス(株)
T. E.	Tachi Etsuko	クロダハウス(株)
S. S.	Shimosaka Seiji	クロダハウス(株)
M. M.	Mayumi Miyake	クロダハウス(株)
H. Y.	Yoshiko Hinata	クロダハウス(株)
N. K.	Nambu Kaori	クロダハウス(株)
U. A.	Asako Uchida	クロダハウス(株)
K. A.	Kashikawa Asami	クロダハウス(株)
N. N.	Nose Natsuki	クロダハウス(株)
K. C.	Kano Chikara	クロダハウス(株)
W. Y.	Yuki Waizumi	クロダハウス(株)
T. K.	kenichiro tanaka	クロダハウス(株)
K. K.	kazutoshi kuroda	クロダハウス(株)
A. T.	AMEMIYA TOMOHIRO	(株)東急ホームズ
T. D.	TATEHANA DAISUKE	(株)東急ホームズ
M. N.	MATSUNO NATSUKI	(株)東急ホームズ
I. K.	KOICHI ISHIHARA	(株)東急ホームズ
S. H.	SAITO HIROKI	(株)東急ホームズ
K. Y.	Yoma kobayashi	ハウディ(株)
K. C.	Chrys Kikuchi	IBMF 事務局長
M. J.	Jun Morita	品質向上委員長
H. M.	Michiaki Hashimoto	IHIO 事務局

主催：一般社団法人(IHIO)輸入住宅産業協会・品質向上委員会 / 企画：C.K.&アソシエイツ

○ フランク・ロイド・ライト(FLW) プラス視察ツアー旅程(予定)

旅行代金 IHIO会員様：¥275,000 / 非会員様：¥300,000						
日次	月日/曜日	都市名(発/着)	時間	交通	摘要	食事
1	平成28年 6月7日 (火)	成田発 シカゴ着	夕刻 午後	航空機	15時00分成田空港集合 航空便にてシカゴへ 入国管理・ 通関を経て メトロブルーライン にて市内ホテルへ シカゴ泊	夕：機内○ 昼：機内○ 夕：IHIO○
2	6月8日 (水)	シカゴ	A M P M 夕刻	メトロ ウォーク	オークパーク(FLW)ホーム訪問 シカゴアーキテクチャー ウォーキングツアー 各自シカゴの 建築名所散策 シカゴ泊	朝：各自 昼：各自 夕：各自
3	6月9日 (木)	シカゴ発 ピッツバーグ経由 ミルラン着	A M P M	航空機 専用車	午前中航空便にてピッツバーグへ (1H15m) 空港からミルランへ (2H) ミルラン近辺泊	朝：各自 昼：各自 夕：各自
4	6月10日 (金)	ミルラン ピッツバーグ着	A M P M	専用車	FLWフォーリングウォーターハウス 並びにケンタック・ノブ見学 ピッツバーグ移動 ピッツバーグ泊	朝：各自 昼：各自 夕：各自
5	6月11日 (土)	ピッツバーグ発 ニューヨーク着	A M	航空機	午前中の航空便にてニューヨーク へ ニューヨーク近辺泊	朝：各自 昼：各自 夕：市内○
6	6月12日 (日)	ニューヨーク発	10:35	航空機	航空便にて成田へ 機内泊	朝：各自 昼：各自 夕：機内○
7	6月13日 (月)	東京 成田着	16:30		東京・成田空港着、 入国・通関後 到着ロビーにて解散	昼：機内○

※ 旅行代金に含まれるもの： 航空運賃-日程表に記載された期間のエコノミークラス団体運賃・燃料サーチャージ、宿泊料金、専用車-ピッツバーグから落水荘視察旅程。

※ 利用予定航空会社：スターアライアンス、ワンワールド、又はスカイチームの航空会社を予定しています。

※ 参加者が10名未満の場合は料金変更、或いはキャンセルとなる可能性もあります。

※ 参加申し込み締め切りは2月29日(月)です。

[企画] C.K.&アソシエイツ (担当：菊池クリス 携帯：090-8476-9749)

[取扱旅行会社] 株式会社新生旅行 (担当：大嶽 眞一氏)

〒105-0004 東京都港区新橋6-2-1 TEL：03-3438-2508 / FAX：03-3438-2560



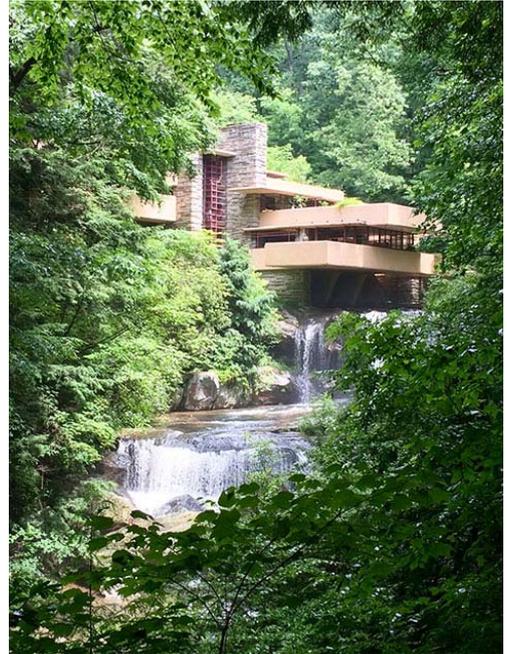
フランク・ロイド・ライト (FLW) プラス視察ツアー

(2016年6月7日—6月13日)

訪問先情報

1. フォーリングウォーターハウス (ミル・ラン、ペンシルヴァニア州)

近代建築の3代巨匠の一人、フランク・ロイド・ライト。FLW が日本で設計した旧帝國ホテルは、現在エントランス部分のみ愛知県犬山市の明治村に移築されていることを皆さんご存知と思います。そのライトの最も有名な個人邸建築が「落水荘 FALLING WATER」。この落水荘は、1935年にピッツバーグ最大のデパートオーナーであったエドガー・カウフマンの依頼でライトが設計した邸宅です。この場所は元々カウフマン家が所有していた自然豊かな山林で、ここにある美しい滝は一家のお気に入りだったとのこと。そこで「この滝を眺められる家を」とライトに依頼をしたカウフマンでしたが、ライトはこの美しい滝をフォーカルポイントとした、滝と融合させた家を建てることを計画。また、壁材に使う石にはこの山で採石された砂石を使い、コンクリート部分の色は、夏になるとこの山に咲くシャクナゲのアイボリーカラーを使う等、「自然を鑑賞する為の家」ではなく「自然と共存する家」をカウフマンに提案したそうです。「自然との共存」というこの家のテーマを具現化する為の手法として大きく3つ挙げられるのが、コントラスト、カンティレバー、カスケードの3つで、家具やインテリアの細部に至るまで、この家の至る所に散りばめられています。カンティレバー（片持ち梁）とは建物の中心部分に片側のみが固定され、小川の上に大きく突き出したテラスがその特徴で、リビングルーム、ベッドルーム、ゲストベッドルームの、各部屋に備えられています。カンティレバー式で余計な支柱が無い事で、どの部屋からも邪魔な柱無く、開放的な景色を望むことができます。この落水荘は1963年まではカウフマンファミリーの別荘として使われていましたが、現在は一般公開されており予約制のガイドツアーでのみ内部の見学が可能です。<http://www.fallingwater.org>



2. Duncan House, Blum House and/or Balter House

ライトの日本にも通じるその建築スタイルの真価を堪能するのに一番な機会は、そう、そこに住むことでしょう。このツアーでは1泊だけそれを実現すべく、12人分の宿泊の仮申し込みをしました。現段階では何人泊まることになるかは未定ですが、宿泊ができない場合でもフォーリングウォーターハウス近くのポリマスパークにある、ライトのデザインによる邸宅を訪問し、思う存分触れてみましょう。それぞれ特徴のあるダンカンハウス、ブルムハウス、そしてバルターハウスは一棟に6名まで宿泊可能ですが、仮申し込みを、有効な予約につなげるには実名での早い申し込みが必要です。ご関心ある方々、できるだけ早めの申し込みをお願いします。このツアーへのお申し

込みいただいた方から順に、実名での申し込み切り替えとさせていただきます。
<http://www.franklloydwrightovernight.net>

3. オークパーク FLW ホーム&スタジオ (オークパーク、イリノイ州)



オークパークはライトが 1889 年から 1909 年まで居住した村で、ライトの設計による住宅が 25 棟建つ場所です。この村に滞在中にライトのトレードマークであるインテリアの空間と照明を平屋(或いは低層)住宅に展開する「プレイリースタイル」を完成させ、20 世紀の建築を大きく変換しました。この地域に存在するライトはアメリカの歴史的ランドマークとして登録されています。ここでは FLW の自宅兼スタジオのガイドツアー(約 30 分)を皮切りに、お好きなライトの設計による建築物を回ってまいります。

ライトウォーキングツアーは 951 Chicago Ave. にあるライトの自宅兼スタジオから始まり、全部回ればこの村に 15 棟見ることのできる住宅が建っています。これらを見て回るにより、ライトの設計スタイルの変化を目の当たりに体験することができる興味深いツアーです。

<http://www.flwright.org/tours>



4. Chicago Architecture Boat Tour by Night

シカゴ建築ナイトボートツアー(シカゴ、イリノイ州)



フランク・ロイド・ライトのプレイリースタイルの後は、シカゴの摩天楼をボートから見るツアーは建築に関わる人間には見逃せないチャンス。75 分のボートツアーでシカゴの有名な建築物、シアーズタワー(現在はウィリスタワー)、リグリービルディング、ジョン・ハンコック・センタービル、等々、40 以上の建築物をシカゴの建築史からの情報豊富なガイドの説明を聞きながら回ります。夜のツアーはこれらの建築物がライト

アップされ、昼とはまた違う表情で街の魅力を演出します。(日本語ガイド交渉中)
下船したら、シカゴといえばそう、ピザ、そしてジャズを楽しみながら建築を語りましょう。

<http://www.viator.com/Chicago-tours/Night-Cruises/d673-g3-c9>

そしてツアーの締めくくりはニューヨーク(ニューアーク)へ移動しての終日視察と、IHIO主催のディナー。ご当地の名物料理をご堪能あれ！

平成 28 年度 I H I O 品質向上委員会米国研修を終えて

輸入住宅産業協会米国研修団長

品質向上委員会 委員長 森田 順

今回は、今までの省エネ技術の習得や海外建材リサーチという実務に直結した研修というよりは、若い人を対象として、住宅のデザインを学ぶと共に、本物に触れることを中心に組み立てました。

フランク・ロイド・ライト (1867～1959) は世界的に知られた建築家ですが、特にそのデザインは日本の住宅に繋がる要素を内在させており、実際にその空間を体感できたことは大きな収穫となりました。

視察では、ライトの作品を時系列に追いかけてきました。まず、サリバンの事務所から独立して最初に開いたスタジオと自邸、若い時代に設計したオークパークにある数々の住宅を見学し、プレーリースタイルが確立されるまでの過程を見学しました。

次にピッツバーグに移動し、低価格住宅を見学しました。あまり知られていないのですが、ライトは普及型のプレハブ住宅を開発しています。実際には 9 棟しか売れなかったようですが、現存しているダンカンハウスの内部を見学することが出来ました。

そして、日本で帝国ホテルを設計した後に 67 歳で設計した、世界で最も美しいと評される落水荘やケンタック・ノブをガイド付きで隅々まで視察して回りました。

最後に、ライトが 91 歳で亡くなった時点ではまだ完成していなかった、ニューヨークのグッゲンハイム美術館を訪れ研修を終えました。

住宅においては、独自のプレーリースタイルの基本となる水平線を強調した内法長押や、直線と円によって構成されるインテリア、深い軒を持つ緩勾配寄棟の外観など、日本人が共感できるデザインが多用されていました。それらにより、パリ万博と同様に、シカゴ万博における日本館建築が世界に与えた影響も確認出来ました。

ライト自身は日本からの影響に言及していないのですが、シカゴ万博に参加しており、広重の版画コレクターであることなどから日本建築を研究していたことは間違いなさそうです。何よりその住宅を見ることによって、日本人にもファンが多いことが実感できました。

今回の研修ツアーは、経営者や営業、設計、工事担当とそれぞれ立場が違う参加者が集い、交流を図ると共に、実際の住宅を見て聞いて感じて学ぶことを目指しました。研修を終えて、すぐ実践できるものでなくても、個々の引き出しの内容を充実させることには寄与できたのではないかと思います。

最後に、参加メンバー及びコーディネートをお願いした菊池さんの絶大なるご支援により、有意義な研修となったことに感謝いたします。